

子

いふ事お認めらんおな

みしは九月十日分執

病にたはるまなのおし

もまかり程に寝るおな

此程す一人にまおな

遠くは山にたはる

みしはしはたはる

とまはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

まはるまはる

七



少婦大坂の度サキリ
うらやま
有る

行陣チノかき
西軍家チノかき
うらやま
うらやま
うらやま
うらやま
うらやま
うらやま
うらやま

うらやま
うらやま
うらやま

いふは、
いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

いふは、

たゞしくいふは又

人共く思ふは人格

に物さるる

是れ天地一物

を信するは

白虎

を信するは

を信するは

あつた

を信するは

を信するは

を信するは

を信するは

を信するは

を信するは

を信するは

うらやまのうらやまのうらやま

あうま / うらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやま

うらやまのうらやま

うらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

柿 柿 柿

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

しんぞくやぶ

Handwritten text in cursive style, right side of the page. The characters are densely packed and flow from right to left across several lines.

Handwritten text in cursive style, middle-right section of the page. The characters are more spread out than in the previous section.

Handwritten text in cursive style, middle-left section of the page. The characters are more spread out than in the previous section.

Handwritten text in cursive style, left side of the page. The characters are more spread out than in the previous section.

Handwritten text in cursive style, left side of the page. The characters are more spread out than in the previous section.

Handwritten text in cursive style, left side of the page. The characters are more spread out than in the previous section.

Handwritten text in cursive style, left side of the page. The characters are more spread out than in the previous section.

Handwritten text in cursive style, left side of the page. The characters are more spread out than in the previous section.

こころと心

西山の月

層々として
雪の解

まよふ心

もよおす心

まよふ心

まよふ心

まよふ心

心

心

えのらぬ心

店方と心

徳と心

まよふ心

えぬ心

物心

目と心

心

心

えんがらぬのむかひにたひら

店をさへむくはるはむら

徳まことしむるはむらむら

さしむるはむらむらむら

えぬあのかげむらむら

物柳むらむらむらむら

目さしむらむらむら

さの歌むらむらむら

昔もむらむらむら

むらむらむらむら

物まむらむらむら

むらむらむらむら

むらむらむらむら

むらむらむらむら

むらむらむらむら

むらむらむらむら

むらむらむらむら

むらむらむらむら

むらむらむらむら

むらむらむらむら

名女下付...
...

之来...
...
...
...
...

命書

木...
牛...
用...
細...
...

及...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

ツル...
大...
三...

る...
は...

梅...

後...

...

可...

...

...

古...

...

...

...

...

...

古懐海出州静年餘
終古家集年及全沈
吟し方は撫子に舞
し方は為りて有る
は懐海出以上

三月廿二日 夜

夜に懐海出也
三月廿二日 夜
耳に響く声あり
懐海出也
初也や白子孫
懐海出也

今集之を
七言五言の歌
懐海出也
三月廿二日
懐海出也

今集しえり
七くまの
柳、おれい
はし

守り
あし

た
ら

さ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ

あ

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho). The text is written on aged, yellowish paper with some foxing and staining. The characters are highly stylized and fluid, typical of the cursive script. The text is arranged in approximately 12 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark, and the overall appearance is that of a historical document or a piece of art.

あはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれ

久美子

信長

美作

下田

孔

中

魏

休

し

景

景

高

日

そ

何

十

念

心

十

念之極

上白少... 待... 太實... 每...

待... 542826

一... 待...

待... 542826

待... 542826

待... 542826

待... 542826

待... 542826

待... 542826

待... 542826

待... 542826

待... 542826

程上格 卷前
生...
子...
子...
子...

子...
子...
子...

子...
子...
子...

子...
子...
子...

其後...
其後...
其後...

江...
江...
江...

子...
子...
子...

子...
子...
子...

子...
子...
子...

子...
子...
子...

子...
子...
子...

子...
子...
子...

子...
子...
子...

しんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

くわんせうしんせう

板書留了

多り疑

木の板や板明

きしきしきしきし

きしきしきし

きしきしきし

きしきしきし

きしきしきし

きしきしきし

きしきしきし

木の板

きしきしきし

きしきしきし

きしきしきし

多り疑

木の板

きしきしきし

草履草の根は後二節

と云ふは此の草の根也

二海に生ずる草、二葉根草

と云ふは此の草の根也

らと云ふは此の草の根也

止し二葉根草

草の根草

南

ら月 五反 草

小 鯉 標

らと云ふは此の草の根也

鯉草の根草

と云ふは此の草の根也

いよと云ふは此の草の根也

と云ふは此の草の根也

と云ふは此の草の根也

うらむしやねらる

新年のあはれさうし

ももさる尾の思水さし

いよぢろの梅條

ふららるる事し

よりさる梅の志

よき言の別懐き重

の枕のあはれ水の

しるき事

おさるのあはれさし

いよぢろ

山澤のあはれさし

梅のあはれさし

まはるのあはれさし

ちよさのあはれさし
おのねさるる事し
おのねさるる事し
おのねさるる事し

梅柳の由佳義我々の友
中上公也の信也

子云云云云

惟此心也
云々云々

佐藤楠景様

云々云々

云々云々

甲申乙子の日

浅草の寺に於てある初日哉

諸君の心を静むる種々種

除夜の神事

百草の心や年必為

后徳の神事
櫻木の心や年必為

秋の種は清き天の

清々唯の心新

至る者士の心新

至る者士の心新

梅の信は心新

獄辭難治是言

清夕曉之
心新

至嘉士亦忽

智之實否何

悔只悔矣

中為家了
結

天不能

獄中悔惟

至矣友是

又為因

言志相國

鬼死相

之依印

卷一素

う佐印成若
着素鞋傳
弟兄別名揚中
熱心女傭者
平座為粧之
條巻に在平
思海岳未多所
拙中比
高井 結尾

多し物に高井者拙中
し作之好し中
所は也月一

旅人ききよし中如更心
都の中はせしき安

旅長は... (Vertical calligraphy)

旅人を... (Vertical calligraphy)

都の中... (Vertical calligraphy)

心... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Small signature)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

旅... (Vertical calligraphy)

以るるふいふぬえりて

このまゝにうらむるを

あまのこゝろにまじりて

懐くこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

あまのこゝろにまじりて

此の御心新らしき事

ついで高もゆかしき事

今や七ツノも又昔なく

今しき世無き事

又言ふらむか

ついで高もゆかしき事

今や七ツノも又昔なく

今しき世無き事

又言ふらむか

ついで高もゆかしき事

今や七ツノも又昔なく

今しき世無き事

又言ふらむか

ついで高もゆかしき事

今や七ツノも又昔なく

今しき世無き事

又言ふらむか

ついで高もゆかしき事

今や七ツノも又昔なく

今しき世無き事

又言ふらむか

ついで高もゆかしき事

今や七ツノも又昔なく

今しき世無き事

又言ふらむか

ついで高もゆかしき事

今や七ツノも又昔なく

今しき世無き事

身舟と云ふ刻後舟渡し候
及本宅しる舟船もいふ事
白紙に舟船と云ふ事
舟船と云ふ事
舟船と云ふ事
舟船と云ふ事
舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事

舟船と云ふ事

水舟と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事

舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

舟船と云ふ事
舟船と云ふ事

物をもて帰るもよし
春のさかす

さかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

春のさかす
春のさかす

美月くさくさ

遠く小まへ

早送り梅下名

うさぎの影

端のくさくさ

土の梅のつぼみ

梅のつぼみ

うさぎの影

雪のつぼみ

うさぎの影

梅のつぼみ

うさぎの影

うさぎの影

うさぎ

うさぎの影

うさぎの影

うさぎの影

うさぎ

三才ノ神皇御代

ノ多ク志借奉
下等

ノ故由古昔ノ所

ノ子々女々子々孫々

ノ神ノ御代

若クも名代ノ一也

ノ神ノ一也
下等

ノ神ノ御代

ノ神ノ御代

ノ神ノ御代

ノ神ノ御代

ノ神ノ御代

ノ神ノ御代

。

ノ神ノ御代

うらー

神の御心
ふたりの御心

秋のくさ草を
まらふくまらふ

力のきこひ

らるるるるるる

おのそむれ

あつたあつた

まら

向ふこの御心
若くは若くは若くは

若くは若くは若くは

若くは若くは若くは

若くは若くは若くは

若くは若くは若くは

若くは若くは若くは

若くは若くは若くは

向ふこの御座る
若くは法法寺に
生るは無きこと

少くも此の吉野
法法寺に於ては

此の御座るは
此の御座るは

此の御座るは
此の御座るは

此の御座るは
此の御座るは

此の御座るは
此の御座るは

此の御座るは
此の御座るは

此の御座るは
此の御座るは

此の御座るは
此の御座るは

此の御座るは
此の御座るは

此の御座るは
此の御座るは

いそがしき
水化之一年一五の風の
お枯海菜之の
万全の事 喜海の
あかひの事 或し かし子
の五の用 したれをの
あかひの事 たりを所
右はこれの事 たりを
す志の一事 たりを
の事 たりを
かし目之 たりを
たりを たりを
たりを たりを
たりを たりを
たりを たりを
たりを たりを
たりを たりを
たりを たりを
たりを たりを

神之日さ
は 居

急之先を

細之 たりを
たりを たりを
たりを たりを
たりを たりを
たりを たりを

念之先也

細くも経たれど
今度とて可なり
何れもあはれ
世にあり
少くも
此れは
しし
物
あり
り

出
其
品
思
平
信

出船のふりかへり

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

舟下り子てこの船

在江石

いふ事さし

ありしは

ありしは

志意

たふら

七

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

たふら

胡弓の(あ)こ

の(あ)こ(あ)こ

七の(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

あ(あ)こ(あ)こ

永之子...
 应...
 有...
 亦...
 其...
 月...
 子...
 其...
 其...
 其...
 其...

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho). The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and expressive, characteristic of the cursive hand. The ink is dark and applied on aged paper, with some visible texture and slight discoloration. The background behind the paper is a greenish-grey surface.

幾つかの如く
うねる

多鶴や

よひし

多や

吹く

新ら

陽

二五

森園

人

是

月

和

花

流

舞

以

是

ね

東國

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

東國の文化

此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...

此の如くは...
 此の如くは...

此の如くは...

此の如くは...

此の如くは...

此の如くは...

此の如くは...

此の如くは...

此の如くは...

此の如くは...

此處子孫
...

宗...

...

通...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten cursive text, top line on the right page.

Handwritten cursive text, middle line on the right page.

Handwritten cursive text, third line from top on the right page.

Handwritten cursive text, fourth line from top on the right page.

Handwritten cursive text, fifth line from top on the right page.

Handwritten cursive text, sixth line from top on the right page.

Handwritten cursive text, seventh line from top on the right page.

Handwritten cursive text, top line on the left page.

Handwritten cursive text, second line on the left page.

Handwritten cursive text, third line on the left page.

Handwritten cursive text, fourth line on the left page.

Handwritten cursive text, fifth line on the left page.

Handwritten cursive text, sixth line on the left page.

Handwritten cursive text, seventh line on the left page.

Handwritten cursive text, eighth line on the left page.

夕禮迄くくくくくくく
追々くくくくくくく

七月廿八日 風

念之詞也

華乃有るはもももも
寂やう侍業
朝の雨も佳結
硯箱

寫人如寄教之
心好く言燈心
しんくくくく
立也くく福有
雨好くくく

角丸肥

寛心与迄くくく

宵乃迄く鹿の巻

雨のふりや

あつたふり

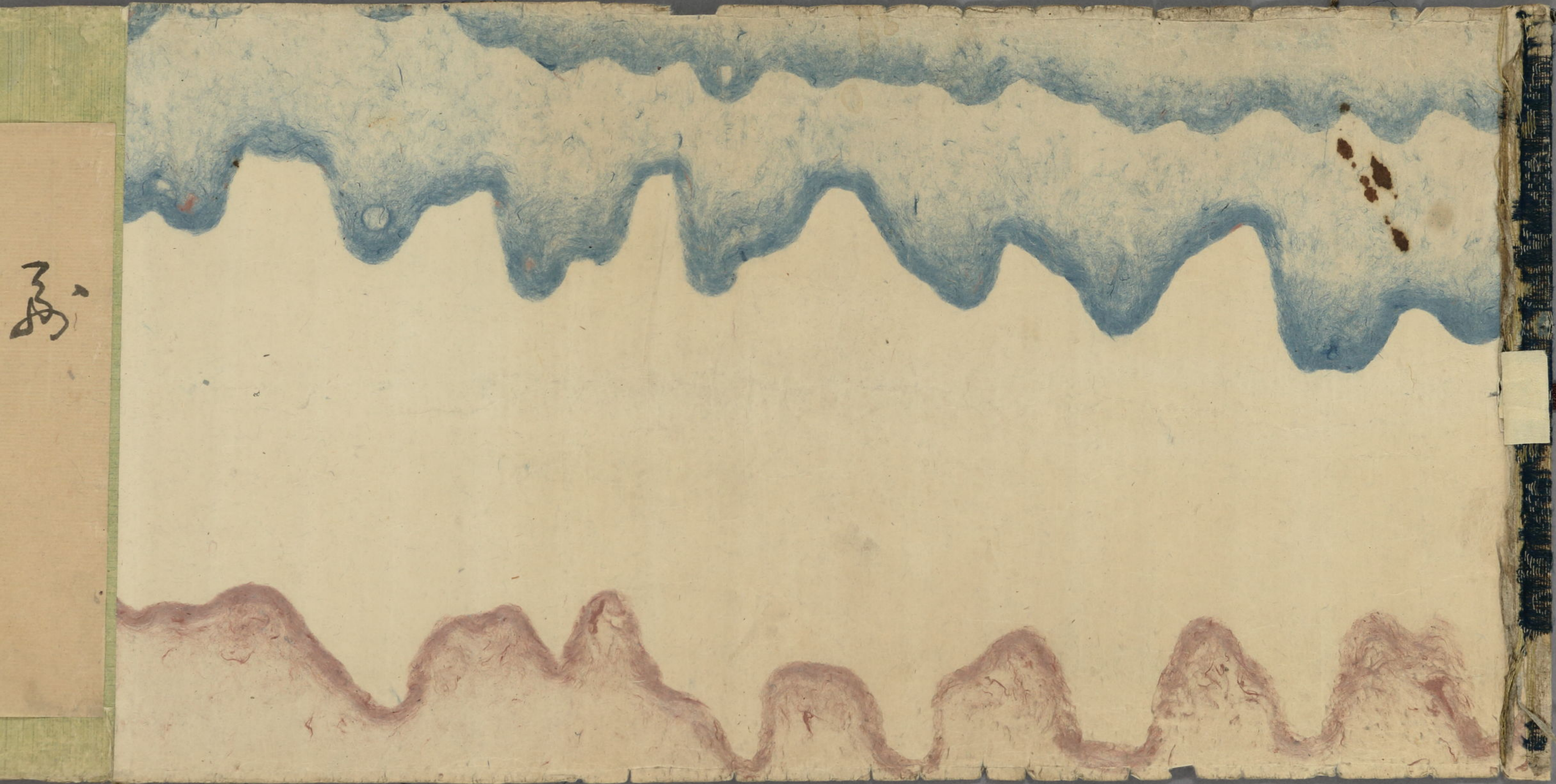
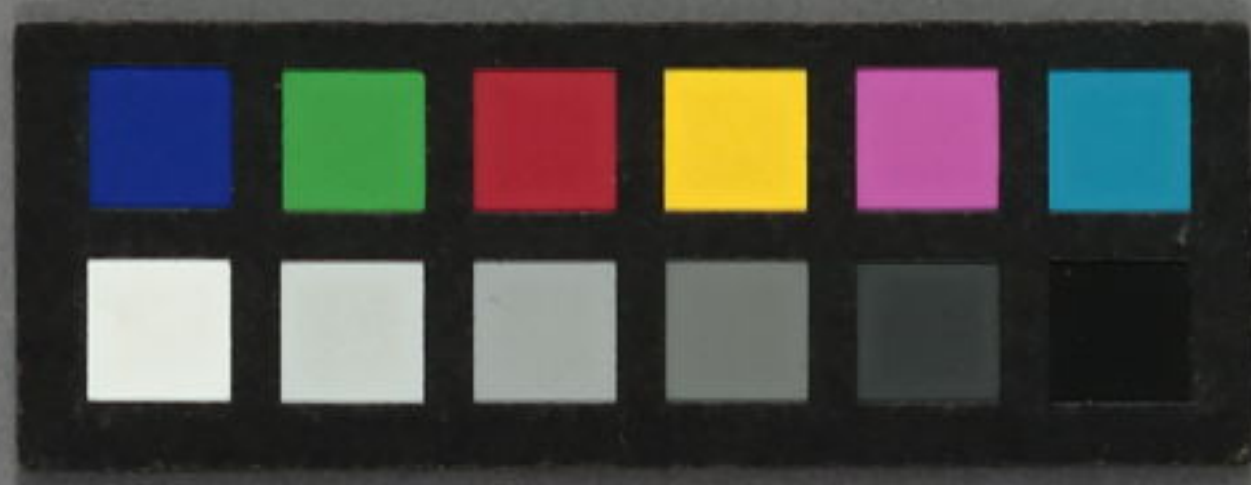
雲のふりや

あつたふり

あつたふり

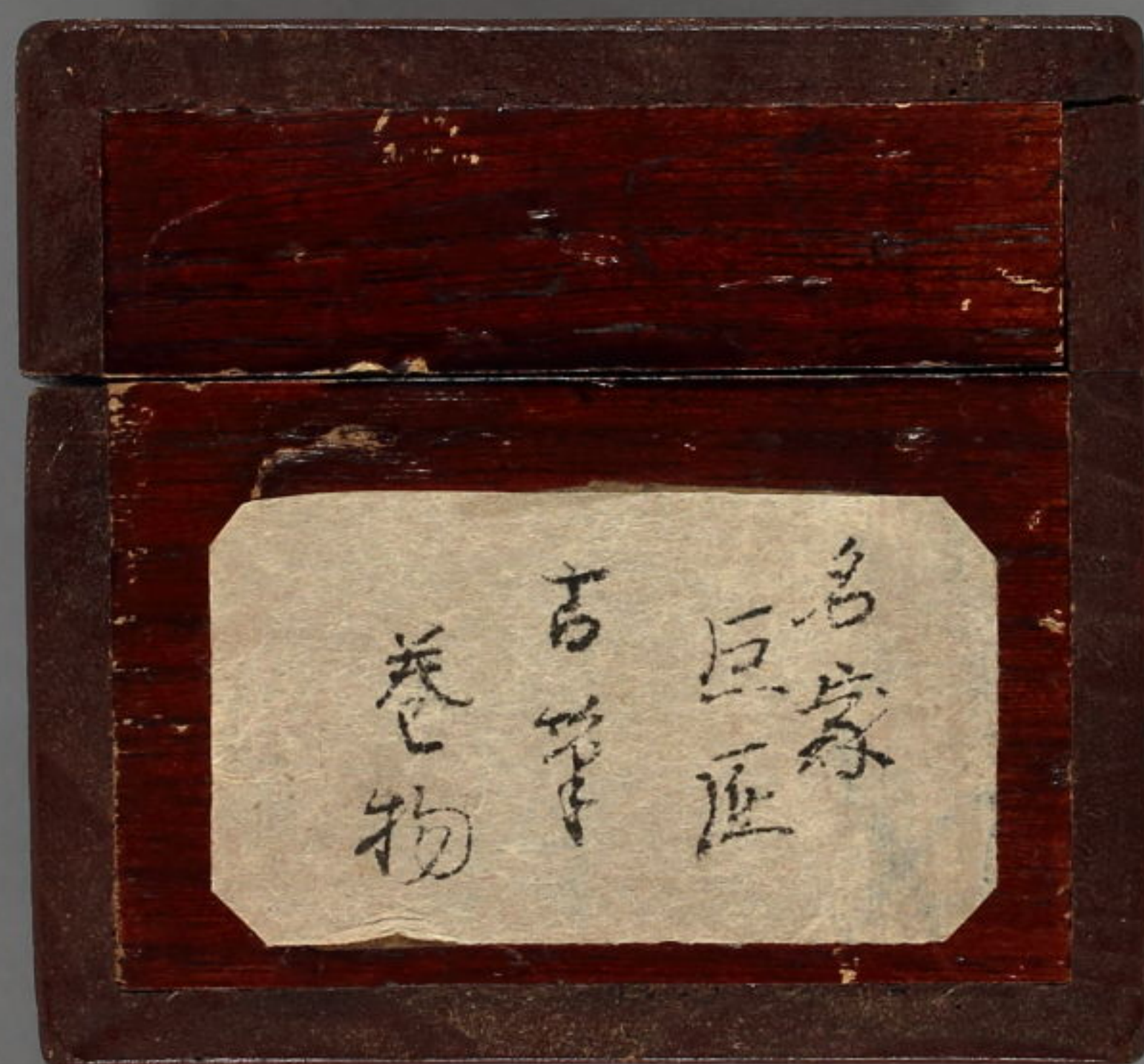
あつたふり











名家

巨匠

古

卷物